



自分から
進んで

がんばった冬休み学習応援教室

自分でこつこつ、
じっくりと



冬休み学習応援教室が4校で行なわれました。冷たい風が吹き、外へ出たくないような寒さにも関わらず、たくさん子どもたちが冬休み学習応援教室に参加しました(参加人数159人、延べ人数348人)。指導者は町費負担教員、退職教職員、山梨大学の学生ボランティア(3名)で行われました。各校から出された成果と課題は次のようなものがありました。

良い面は、「児童は、しっかり課題意識を持って参加していて、自ら学ぶ学習ができているのは家庭における指導ができていからだと感じる。」「夏の学習応援教室よりも静かで、自分の学習に集中する児童が増え、わからないところは手を挙げ質問できた。」「子ども達の集中力が持続できた。」「山梨大学の学生さん2名が優しく対応してくださりよかった。」などありました。課題としては、「参加する時間に見合った量の課題を持ってきていない児童もいて、時間をもてあましてしまっていた。」などありました。各学校では、欠席や下校時刻の確認など安全面の確保に留意していることが伺えました。



報告にあるように、どの子どもも応援教室にも慣れ、冬休みの宿題や各家庭で用意したドリルなどを持参し、黙々と学習に取り組んでいるようです。中には、指導者に積極的に質問する姿も見られ、主体的に学習に取り組む姿が育まれていることを感じました。



学生ボランティアによる指導

成人おめでとございます



1月13日に、「平成31年成人者のつどい」が勝山さくやホールにおいて行なわれました。そこで見られた姿は、小学校を卒業して8年、中学校を卒業してわずか5年とは思えないような成長した姿でした。この間、どんな日々を送ってきたのでしょうか。多感で人としての礎が築かれ、人生の道筋が明確になってくる時を経て、この日を迎えられる皆様に、心の底から「おめでとう」と、お祝いの言葉を贈りたいと思います。

新成人代表の三浦雅暉さんは誓いの言葉で「わたしたちは平成に続く、新しい時代を背負って立つ立場だということをしっかりと自覚し、平成という時代に育ったことを誇りに、社会に貢献できるよう努力して参ります。ときには困難な壁に突き当たることもあるでしょう。しかし、そんなときでもあきらめず、粘り強く取り組み、困難を乗り越えていかなければなりません。」と決意を述べていました。さらなる成長と活躍を期待しています。



・富士山学習年間指導計画を作成していることと思います。「富士山は文化遺産であること」の理解が不十分との課題も挙がっています。多くの先生方の視点で作成していただくようご協力お願いいたします。

・今年度は、富士山学習の実践例の集約をしています。どのような実践例でも結構です。研究員の先生にお渡しください。

センターからの
お願い